

平成31年1月9日(水)

積極善

昔、私が田村高校で高校野球の監督をしていた時代は、まさにPL学園が、桑田清原をはじめとして隆盛を誇った時代であり、その監督は、中村監督であった。

中村監督がどのような話をして生徒たちを導くのか非常に興味があつて、様々な雑誌や著書や選手たちの言葉からうかがい知ること懸命になったことがある。

そんな折に出会ったのが、積極善という言葉である。積極善とは、積極的に自ら良いと思うことを思うと同時に行動を起こすということであつたと記憶する。

例えば、道に何かの紙くずが道に落ちていたとする。そこを通りかかっただれでもよいどこかの人が、その紙くずを認識した時、自然と拾うか知らないふりをして通り過ぎるかには、大きな違いが生まれていく。

簡単に言うと、紙くずを意識した時、拾ったものは、いつでも拾うものとなり、知らないふりをしたものは、きっといつでも知らないふりをするだろうということである。

例えば、バッターボックスにいて、どんな素晴らしいピッチャーでも、投げ急ぎとかコントロールミスとかで、これだと思ふボールを思わず投げてしまう時があるときに、その一球をすかさず打つことができるのは、必ず紙くずを拾うものであるという理論である。

ゆえに、その時のために、いつでもできるように準備することが積極善の由来なのだ。

紙くずを拾うものとして意識できるかがまず1点、拾うものと意識した時にすかさず拾うことができるかが次の1点、そしてそれがどんなときにもできるかが1点、この3点がそろって初めて行為はいつもできるに結実する。

これがなかなか難しい、そして、本当にそれだけかということこれも難しい。

しかし、そんな準備を重ねている意識の高い選手になれという教えは間違いない。この積極性がじぶんのものにできる選手は、きちんと結果を残すのだ。

きっと野球だけではなく、生活のすべての中に潜む真実を言い当てている言葉であると思う。そのことに縛られてにっちもさっちもいかなくなつては元も子もないが、できることはすべてやろうと思つていることは大切なことだ。

1球目から狙うこと、狙い通りのボールを逃さないこと、結果にあたふたせず同じことを繰り返していくこと、これが大幅な飛躍のカギとなると考える。

